

すごろくと 楽しく ごみ減量

動画で

引佐まちづくり協×常葉大生作製



「ごみ減量の要点が学べるすごろくをする（左から）山本培代さん、青嶋風花さん、小野歩実さん―浜松市引佐支所で

クイズや動画につながるQRコードを載せているすごろく



浜松市浜名区の引佐まちづくり協議会は、家庭でのごみ減量を目的にしたすごろく(A3判)を作製した。常葉大浜松キャンパスの地域貢献サークルと連携し、要点を短くまとめた実演動画が見られるQRコードを12個載せたのが特徴。幅広い世代に楽しみながらごみ減量を意識してもらおうと、引佐地区の全世帯に配布した。(中野吉祥)

分別徹底などPR

協議会ではインスタグラム(@machikyoumei)の「ごみ減量に関する意見を募っている。

現していきたい」と強調した。

市では、家庭ごみの有料化に関する条例改正案が3月に市議会で可決。実施時期は定めず、市民の間で減量が進めば施行を先送りする可能性がある。協議会の山本培代会長は「有料化は家計の負担も増える。リサイクル活動に取り組む地域の団体とともに、ごみ減量を少しでも実現していきたい」と語った。

同大の地域貢献サークル「Cocoba」に所属する、いずも経営学部2年の小野歩実さん(19)、青嶋風花さん(19)は「要点を押さえた動画にするため、ごみ減量について多くを学んだ」「まぜればごみ、分ければ資源」という意識が必要。すごろくや動画で幅広い世代に伝わってほしい」と語った。

「ごみ減量のカギはもえるごみ」「トレイやカップは汚れを落とす」「買いきなない」などと書かれたすごろくのマスは50個以上ある。市のガイドブック「今日からできるごみ減らし術」を参考にした。クイズのマスもあり、市が掲げる1人1日当たりの「ごみ減量目標グラム数(100g)」などを出題。雑紙は種類や地元の集積所の場所も紹介している。

常葉大の学生たちが制作した実演動画では、紙パックの再資源化や水切りによる生ごみの減量の方法、果物の皮など廃棄されていた食材に価値を与えて活用する「アップサイクル」のメニューも取り上げた。1本30〜40秒程度にまとめ、「まちづくり引佐」のYouTubeチャンネルで公開。すごろく上のQRコードからも手軽に視聴できる。



常葉大の学生たちが制作した動画の1コマ